

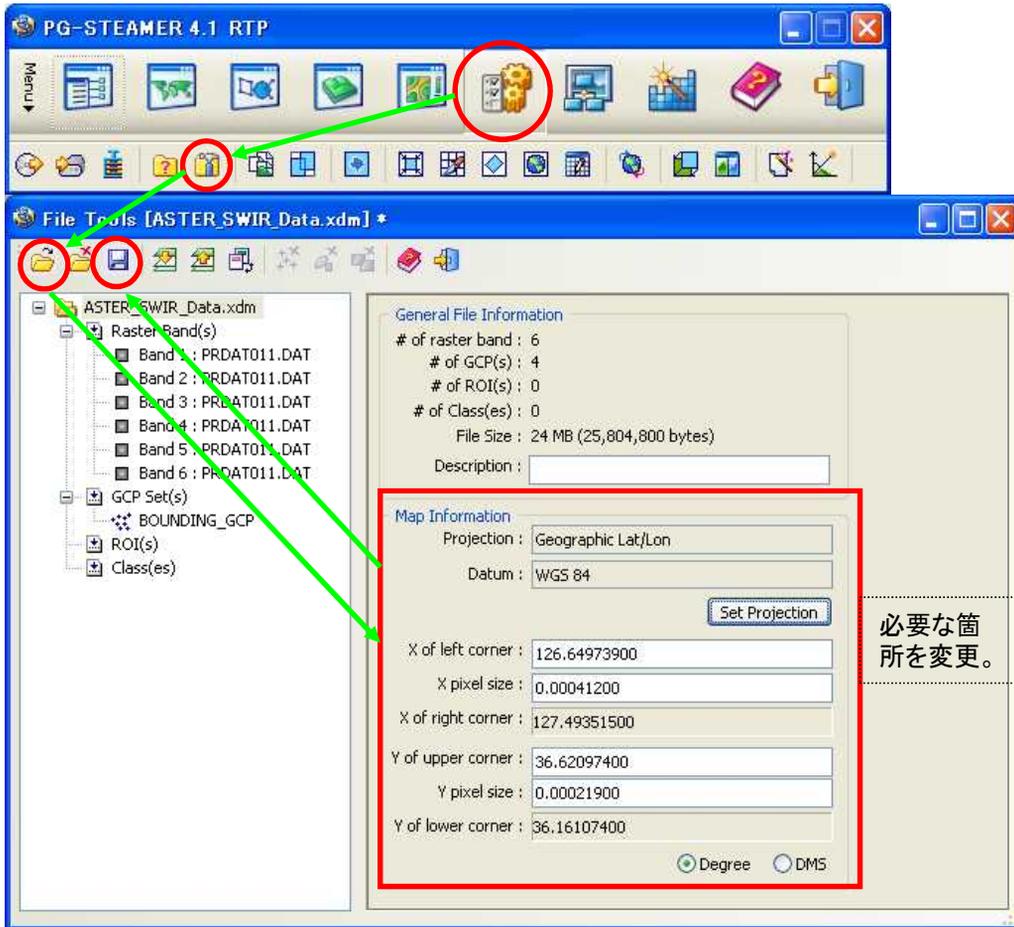


ヘッダ情報編集 (座標情報の付与、ファイル統合、バンド削除、定義):

投影法、解像度、地域、ヒストグラムなどを確認したり、簡易的に表示ができます。

A: 座標情報を付与する場合

事前に、画像の左上隅の座標値や投影法、ピクセルサイズがわかっている場合、こちらで定義して座標情報を付加させることができます。



B: 既存のGCPやROIを削除する場合

事前に幾何補正や分類によってファイルにGCPやROIが付与されているものを削除できます。

ファイル名以下に表示されたGCPやROI名を選択し、
ウィンドウ上の各アイコンから削除します。



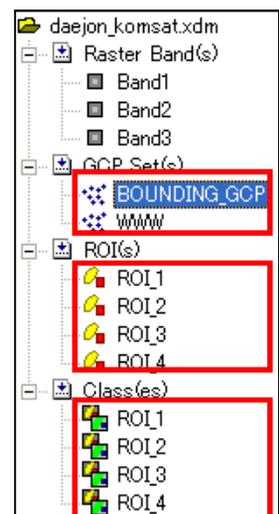
=GCP



=教師データ



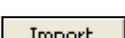
=実行に用いる教師データ



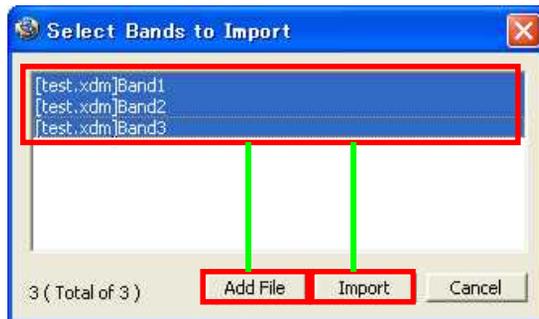
C: ファイルを統合する場合

複数のファイル内のバンドを一つのファイルに統合します。解像度とピクセルサイズが一致していることが条件なので、それらが異なる場合、事前にリサイズ機能で一致させておく必要があります。

※同項4ページにある「ファイル統合とバンド編集」を用いれば、それら作業を省いて統合できますので、そちらのご利用をお勧めします。

-  で“Select Bands to Import”ダイアログを表示し、
 から統合するファイルを読み込み、バンドを選択します。 から統合できます。

* バンド選択には、CtrlキーやShiftキーも利用できます。



D: バンドを削除する場合

(こちらも、同項4ページにある「ファイル統合とバンド編集」のご利用をお勧めします。)

-  で“Select Bands to Export”ダイアログを表示し、
 から削除します。

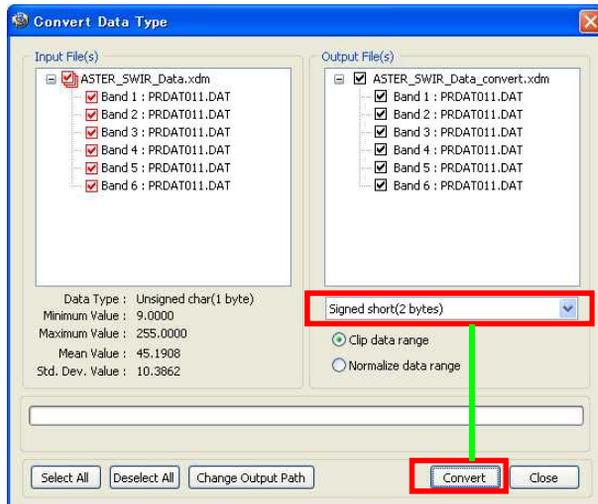
* バンド選択には、CtrlキーやShiftキーも利用できます。



E: データタイプを変更する場合

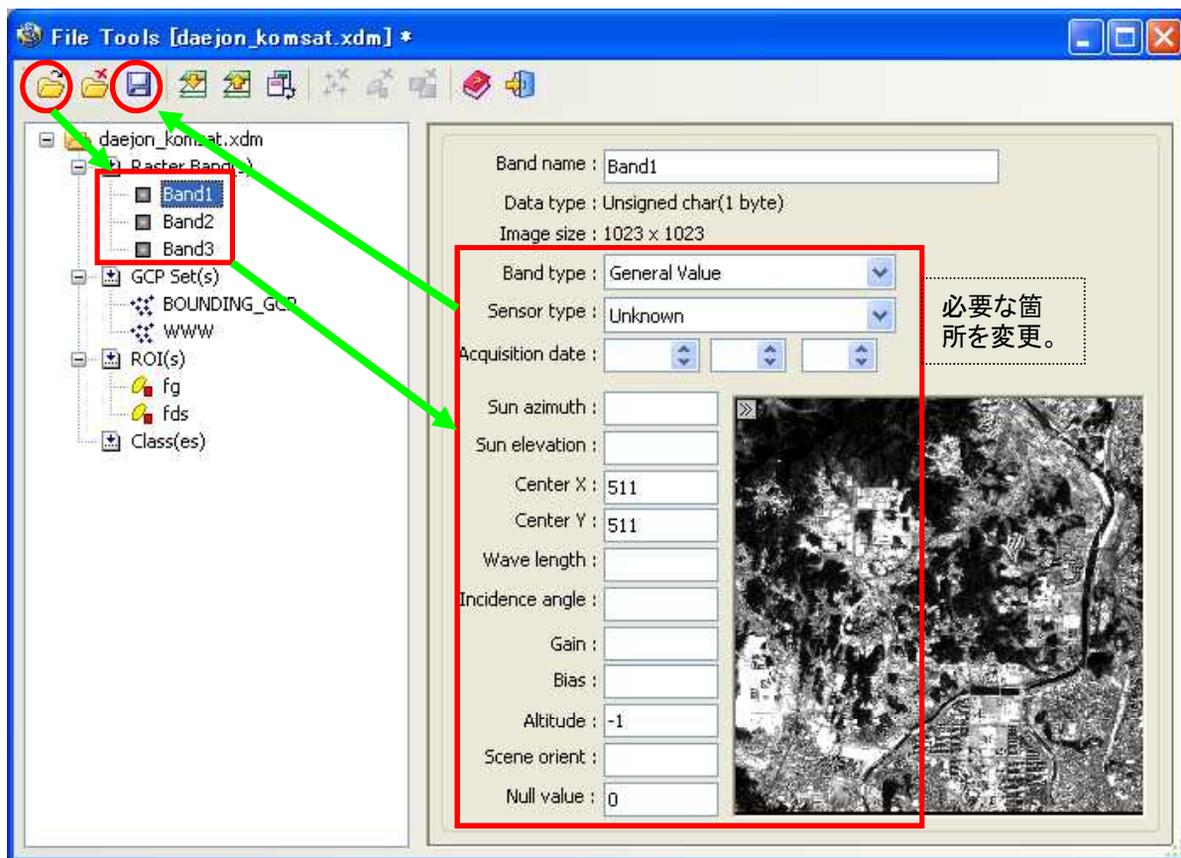
16ビット、8ビットなどでデータタイプを変更することができます。

-  で“Covert Datatype”ダイアログを表示し、
変更したいタイプを選択、 で実行します。



F:ファイルの定義をする場合

衛星画像、SAR画像、DEM、空中写真、デジカメ写真など、そのデータの種類を定義します。
また、ヒストグラムなどで計算対象として省く、Null値の設定もこちらでおこないます。

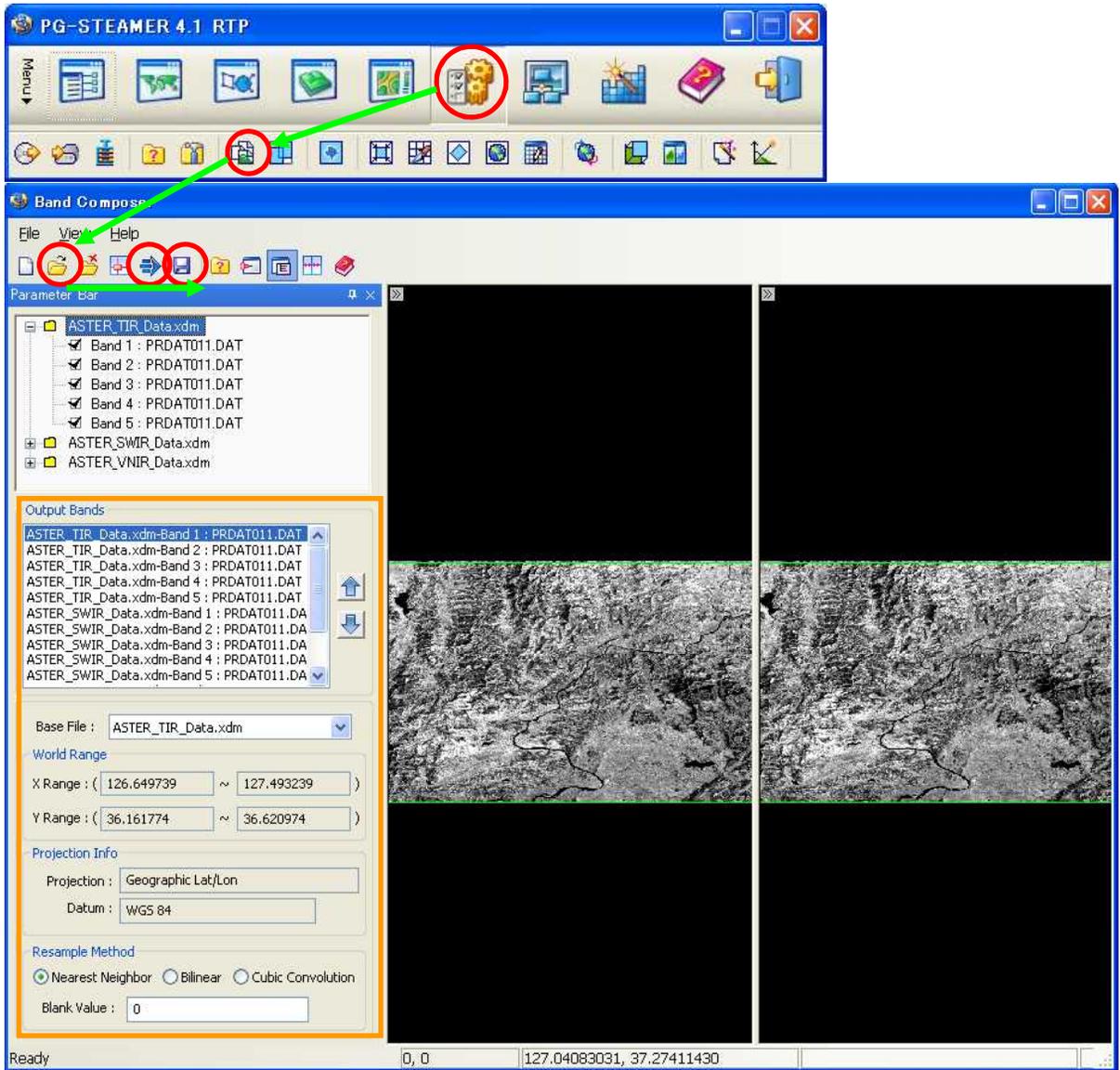


- 各バンドを選択すると右側の表示が変わり、設定入力できます。“Band Type”などは、分類処理などに影響する場合がありますので、定義しておくことをお勧めします。各バンドごとに設定が必要です。



ファイル統合とバンド編集:

2つ以上のファイルを1つに統合します。異なったサイズや解像度の画像間でも、そのままのサイズで、解像度と投影位置を自動調整して統合します。また、こちらでファイル内のバンドの順位も変更できます。



- ・  から、対象となる xdmファイルを呼び出します。(複数可) “Parameter Bar” 枠内に呼び出したファイル名がリストされ、これをダブルクリックすると内装されたバンドが現れます。統合に必要なバンドはチェックを外します。
- ・ 逆に、 から、呼び出したファイルを消すこともできます。
- ・ 必要な場合、“Output Band”  枠内で、統合後のバンド順位を入れ替えたり、ベースとなるファイルの指定や、投影位置の自動調整に用いる補正手法を選択できます。